

Cisco IOS プラットフォーム上での着信ダイヤルピアと発信ダイヤルピアについて

内容

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[表記法](#)

[着信ダイヤルピアと発信ダイヤルピア、および着信コールレグと発信コールレグ](#)

[着信ダイヤルピアの重要性](#)

[関連情報](#)

概要

このドキュメントでは、インバウンドとアウトバウンドのダイヤルピアとコールレグの相違点について説明します。また、このドキュメントではデフォルト以外のサービス、アプリケーション、機能を使用して音声コールを設定および実行する際に照合するインバウンドダイヤルピアの重要性について説明します。

前提条件

要件

このドキュメントの読者は、『[Cisco IOS® プラットフォーム上のダイヤルピアとコールレグについて](#)』を理解している必要があります。

使用するコンポーネント

このドキュメントの内容は、特定のソフトウェアやハードウェアのバージョンに限定されるものではありません。

表記法

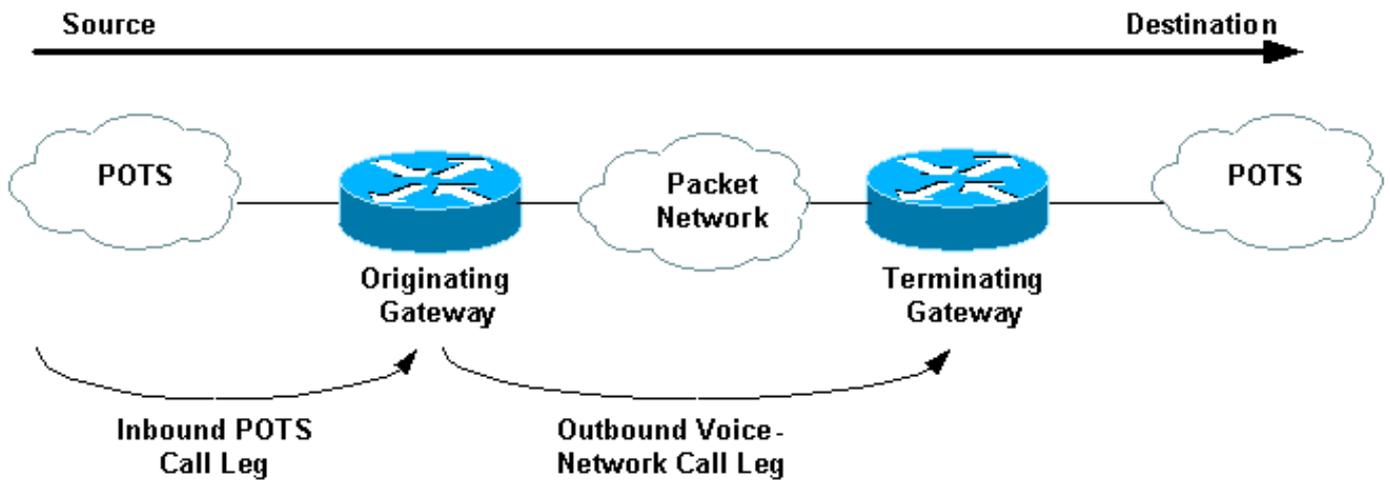
ドキュメント表記の詳細は、『[シスコテクニカルティップスの表記法](#)』を参照してください。

[着信ダイヤルピアと発信ダイヤルピア、および着信コールレグと発信コールレグ](#)

ダイヤルピアは、着信コールレグと発信コールレグの両方で使用されます。これらの用語は、ル

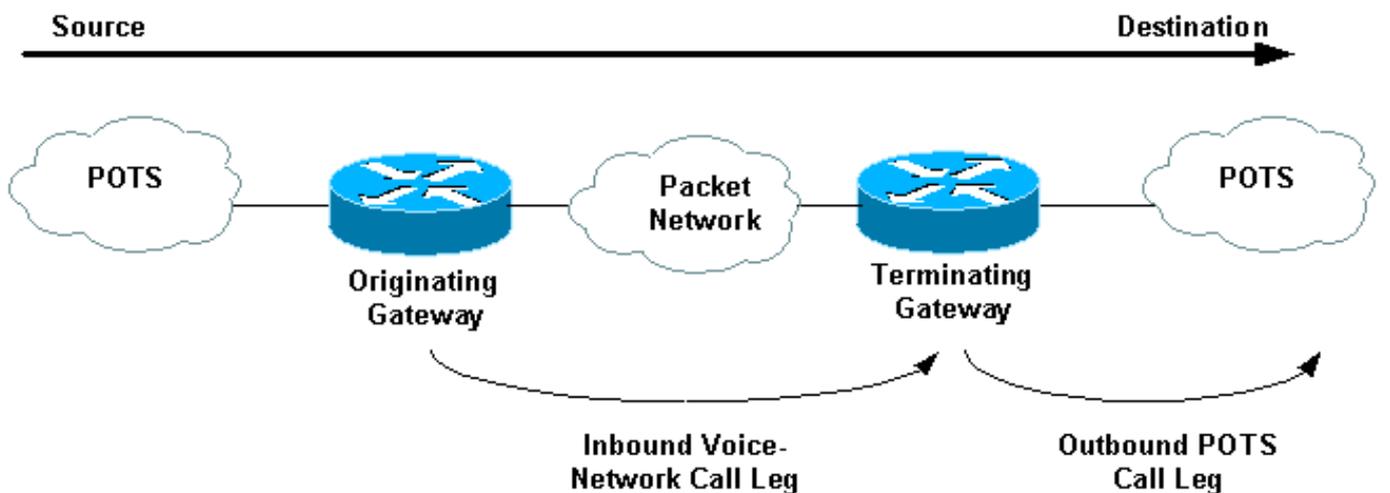
ータ/ゲートウェイの視点から定義されています。着信コールレッグは、ルータ/ゲートウェイにコールが着信したときに生成されます。発信コールレッグは、コールが発信される時、またはルータ/ゲートウェイからブリッジされる時に生成されます。

図 1. 発信側ルータ/ゲートウェイから見たコールレッグ



Plain Old Telephone Service (POTS; 一般電話サービス) から着信して、パケットネットワークに送出されるコールでは、発信側ルータ/ゲートウェイによって、最初に着信POTSダイヤルピアが照合され着信コールレッグが生成されます。次に、発信側のルータ/ゲートウェイが、発信コールレッグ用の Voice over IP (VoIP) や Voice over Frame relay (VoFR) などの発信音声/ネットワークダイヤルピアを作成します。その後で、ルータ/ゲートウェイが2つのコールレッグをブリッジします。

図 2. 着信側ルータ/ゲートウェイから見たコールレッグ



音声ネットワーク インターフェイスから POTS インターフェイスに送出される着信コールでは、着信側のルータ/ゲートウェイにより、着信音声ネットワークダイヤルピアが照合され、着信コールレッグを生成します。次に、発信コールレッグ用の発信 POTS ダイヤルピアが作成されま

着信ダイヤルピアの重要性

音声ダイヤルピアに対するよくある誤解は、それらが発信機能専用を設定される、つまり、ダイヤル文字列をリモート ネットワーク デバイスに (Cisco IOS コマンドの **destination-pattern** と **session target** を使用して) または POTS 音声ポートに (Cisco IOS コマンドの **destination-pattern** と **port** を使用して) マッピングするためだけに設定されると考えられている点です。ただし、デフォルト以外のサービス、アプリケーション、または機能が提供されるシナリオを処理する場合は、ダイヤルピアを着信機能用に設定する必要があります。

発信側のルータ/ゲートウェイで受信される着信 POTS コール レッグでは、着信コールのデフォルト以外のサービスとアプリケーションに次のものが含まれます。

- Direct Inward Dial (DID; ダイヤルイン方式)。このテーマの詳細については、『[Cisco IOS デジタル \(T1/E1 \) インターフェイス上の Direct-Inward-Dial \(DID \) について](#)』を参照してください。
- Tool Command Language (TCL) ベースのアプリケーション : Interactive Voice Response (IVR; 対話式ボイス自動応答)、VoIP Session Initiation Protocol (SIP) 転送、オンランプ FAX (ストアアンドフォワード FAX 関連) など。

このようなサービスまたはアプリケーションを使用する場合は、該当するサービスまたはアプリケーションを使って設定された正しい着信 POTS ダイヤルピアが一致していることが重要です。詳細については、『[IOS プラットフォーム上での着信および発信ダイヤルピアの照合について](#)』を参照してください。

発信側のルータ/ゲートウェイからデフォルト以外の音声ネットワーク機能または TCL アプリケーションが要求された場合は、着信側のルータ/ゲートウェイが着信音声ネットワークダイヤルピアを使って設定されたそれらの機能とアプリケーションを照合する必要があります。Cisco IOS ソフトウェアがデフォルト以外の設定された着信ダイヤルピアを照合できない場合は、内部的に定義されたデフォルトのダイヤルピアを使用して着信音声コールが照合されず、着信コール レッグがデフォルト以外の機能、サービス、またはアプリケーションを備えており、デフォルトのダイヤルピアに照合された場合は、コール セットアップが失敗する可能性があります。

デフォルトのボイスネットワーク能力の一例は次のとおりです。

- codec g729r8 (ペイロード 20 バイト)
- vad enable
- dtmf-relay disable
- fax-relay disable
- fax rate voice
- req-qos best-effort
- acc-qos best-effort
- huntstop disabled
- preference 0
- playout-delay 40 ms
- register E.164 number with GK
- digit-strip enabled
- session protocol cisco (H.323 用)

注 : ルータ/ゲートウェイのIOS設定の出力には、デフォルトの機能は表示されません。POTS および音声ネットワークダイヤルピアに設定された機能、サービス、およびアプリケーションを表示するには、コマンド **show dial-peer voice *number*** を発行します。

注 : 音声のデフォルトDSCPはef codepoint 101110(RFC 2598)、シグナリングのデフォルトDSCPはaf31コードポイント011010(RFC 2597)です。デフォルトのダイヤルピアであるPID 0は

、DSCP 0にパケットをマーキングしません。ルータ上のすべての音声パケットは、デフォルトでマーキングされます (ダイヤルピアで上書きできます)。AF31でシグナリングし、EFでメディアをシグナリングします。デフォルトダイヤルピア0を照合するコールもこれと同じ動作をするはずです。

詳細と実施例については、『[IOS プラットフォーム上での着信および発信ダイヤルピアの照合について](#)』のケーススタディを参照してください。

関連情報

- [Cisco IOS プラットフォームにおけるダイヤルピアとコールレグの理解](#)
- [Cisco IOS プラットフォームにおける着信および発信ダイヤルピアの照合方法について](#)
- [Cisco IOS プラットフォームでのダイヤルピアの稼働状態について](#)
- [Cisco IOS デジタル \(T1/E1\) を装備したインターフェイスにおけるダイヤルイン方式 \(DID\) について](#)
- [ダイヤルプラン、ダイヤルピア、ディジット操作の設定](#)
- [音声に関する技術サポート](#)
- [音声と IP 通信製品サポート](#)
- [Cisco IP Telephony のトラブルシューティング](#)
- [テクニカルサポート - Cisco Systems](#)